

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大島 勇作 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

このころ僕は小学2年生でした。帰りの会
のと中でした。そして、東日本大震災が起こ
りました。最初の方は揺れが小さくて少し安
心していましたが、時間かたうにづれて揺れが
激しくなり、クラスみんなが机の下に隠れ
ました。揺れが激しくて身を隠していた机
えが左右に激しく移動してしまいました。
そこで放送で「校庭へ避難してください」。
と放送があり、整列して校庭へ避難しました。
校庭に着いたらすぐに先生の指示に従いました。
自分の親が迎えにくることにになり、僕は母と
と入で家に帰りました。
家では、外にテントをはり数時間過ごし、
事務所へ移動し数日過ごしました。数日過
して僕は改めて水と協力の大切さを知りまし
た。
このことから僕は、どんな時でも力を合わせ
協力することが大切だと感じました。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

僕が、東日本大震災にあってから、4年くら
 いかたちました。
 震災が起きた時の恐怖は、今でも忘れら
 れません。地震直後は、道路が割れていたり、
 していたので、とても怖か。たです。自分の
 家に帰って来ると、家の中の物が壊られて
 いました。あまりにもひどかったので、僕は
 びっくりしました。震災の後の生活は、とて
 も大変でした。家の水が出ないので、祖母の
 家に行って水をもらっていました。また、買
 い物にも苦労してました。放射能もあった
 ので、あまり外には行けませんでした。今で
 もちょ、その地震が起こると怖くなってしまう
 います。

復興への想いは、僕がいわきへ行った時に、
 津波でほとんどの建物が流されていた地域が
 ありました。なので、津波の影響を受けない
 ものがあるといいなと思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 山本 凌央 年齢 13 歳 職業・学校名 大吹町立大吹中学校

僕は、東日本大震災が起きた時は、小学校
 二年生でした。また校舎の中において、地震が
 起こると急いで、校庭へ避難しました。初め
 の大地震で僕はとてもびっくりしました。
 そして僕は家に帰り、おどろきました。下
 駄箱は倒れて、時計の針も止まっていたりし
 ておりました。僕の家は被害は壁にびびが少し
 入っているだけでした。しかしある友達に、
 家が全壊してしまいました。このことを聞いたり、
 テレビなどで被害を見たりと、地震はとても恐
 しいことだと分かりました。
 僕は、地震はもう起こってほしくないと思
 いました。地震は、人の命とけが、たり、家
 を全壊させたたりしてしまいう恐しいことなので
 二度と起こってほしくありません。最近も、
 地震の回数が減っていきませんが、地震が起こる
 と僕は、東日本大震災のことを思い出します。
 東日本大震災のことは、忘れません。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 伊藤言成哉 年齢 12歳 職業・学校名 知吹中学校 木交

僕	は	。	3	月	11	日	の	日	学	校	に	い	ま	し	た	。	そ	の				
当	時	僕	は	。	強	い	地	震	な	ど	体	験	し	た	と	し	も	な	く			
地	震	が	お	き	た	時	は	。	バ	ッ	キ	ッ	ク	を	お	こ	し	ま	し	た		
そ	の	地	震	が	お	き	た	と	き	に	感	じ	た	の	は	い	つ	も				
僕	達	が	い	つ	も	飲	ん	で	い	る	水	。	飲	料	が	特	別	だ	と			
い	う	こ	と	で	す	。	僕	の	家	で	は	お	父	さ	ん	の	知	り	合			
い	か	ら	た	く	さ	ん	の	水	が	お	く	ら	れ	て	き	て	こ	う	い			
う	災	害	時	に	は	。	た	く	さ	ん	の	人	達	と	協	力	し	合				
て	苦	難	を	乗	り	こ	え	て	い	く	の	ご	大	事	だ	と	果	し				
し	た	。																				
こ	の	体	験	を	し	た	今	め	僕	が	思	う	の	は	。	た	く	さ				
ん	の	復	興	へ	の	取	り	組	み	が	行	わ	れ	て	い	て	災	害				
受	け	て	し	ま	っ	た	人	々	も	笑	顔	が	も	ど	。	こ	う	い				
思	い	ま	す	。																		
と	れ	が	ら	の	未	来	は	。	も	っ	と	た	く	さ	ん	の	人	々				
が	笑	顔	が	あ	ら	れ	る	世	界	に	な	ら	れ	ば	ま	り	な	い				
ま	す	。	そ	れ	に	災	害	を	受	け	て	し	ま	。	た	人	々	が				
れ	も	ま	た	子	供	に	て	伝	え	て	く	れ	た	ら	な	い	な					
い	ま	あ																				

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡邊 集聖 年齢 13歳 職業・学校名 矢吹中学校

東	日	本	大	震	災	が	起	こ	っ	た	の	は	僕	が	ま	だ	2	年	
生	の	と	き	で	し	た	。	帰	り	の	学	活	の	と	き	に	地	震	が
起	こ	り	ま	し	た	。	も	の	す	ご	い	ゆ	れ	、	鳴	り	響	く	轟
音	、	と	て	も	す	ご	か	っ	た	で	す	。	ク	ラ	ス	の	み	ん	な
は	と	っ	さ	に	机	の	中	に	も	ぐ	っ	こ	み	ま	し	た	。	僕	は
机	の	中	で																
「	早	く	お	さ	ま	れ	、	早	く	お	さ	ま	れ	」					
と	か	っ	と	思	っ	て	ま	し	た	。	ゆ	れ	が	止	ま	る	と	み	ん
な	い	、	せ	い	に	校	庭	に	出	ま	し	た	。	校	庭	は	ゆ	れ	で
流	れ	出	た	プ	ール	の	水	で	び	じ	ま	ぬ	れ	は	な	っ	て	い	
ま	し	た	。	み	ん	な	と	て	も	こ	わ	く	て	泣	い	て	い	た	人
も	い	ま	し	た	。この	と	て	も	お	そ	ろ	し	い	地	震	は	今		
も	忘	れ	ら	れ	ま	せ	ん												
今	、	と	ん	と	ん	復	興	が	始	ま	っ	て	い	ま	す	が	、	汚	
染	水	や	放	射	線	な	ど	の	問	題	が	ま	だ	ま	だ	あ	り	ま	す
い	つ	か	こ	の	問	題	が	無	く	な	る	の	を	僕	は	願	っ	て	い
ま	す	。																	

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 水野 彩華 年齢 12 歳 職業・学校名 矢吹中学校

あ	の	時	、	私	は	小	学	2	年	生	で	し	た	。	帰	り	の	会		
の	時	、	突	然	大	き	な	地	震	が	来	て	、	急	い	で	机	の	下	
に	も	ぐ	り	ま	し	た	。	時	計	や	本	が	た	く	さ	く	落	ち	て	
き	て	、	と	て	も	ド	キ	ド	キ	し	た	の	を	覚	え	て	い	ま	す	。
先	生	が	必	死	に	「	が	ま	ん	だ	よ	、	が	ま	ん	だ	よ	」	と	
叫	び	て	い	た	の	も	、	強	く	心	に	残	っ	て	い	ま	す	。	外	に
避	難	し	た	後	、	お	母	さ	ん	が	迎	え	に	来	て	く	れ	た	時	
は	、	と	て	も	ほ	っ	と	し	ま	じ	た	。								
今	で	は	大	き	な	ひ	び	が	あ	っ	た	か	べ	や	プ	ー	ル	は		
き	れ	い	い	直	っ	て	い	ま	す	。										
あ	れ	か	ら	5	年	た	っ	て	、	私	は	中	学	生	に	な	り	ま		
し	た	。	物	の	見	方	が	小	学	生	の	こ	ろ	と	ほ	少	し	変	わ	
り	、	大	人	に	な	っ	た	気	が	し	ま	す	。	今	で	は	、	も	う	
なん	の	不	自	由	も	な	く	、	毎	日	を	過	し	て	い	ま	す	。		
あ	の	時	、	初	め	て	「	あ	た	り	ま	え	」	が	ど	ん	な	に	幸	
せ	な	こ	と	か	、	「	あ	た	り	ま	え	」	で	は	な	く	な	る	こ	
と	が	ど	ん	な	に	恐	し	い	か	を	知	り	ま	し	た	。	こ	ん	な	
こ	と	を	経	験	し	た	私	た	ら	だ	か	ら	こ	そ	、	こ	れ	か	ら	
の	未	来	に	役	立	て	た	い	で	す	。									

(20文字 × 20行)

氏名 鈴木 真央 年齢 11 歳 職業・学校名 矢吹中学校

東日本大震災のときにぼくは、小学校二年
 生でお母さんとインフルエンザで休んでいま
 した。するといきなり、大きなじしんがきて
 ぼくは、お母さんといっしょにテーブルの下
 にかくれようとしてしました。そしてじしんがお
 さまり周りを見るとタンスはたおれ皿は割れ
 けあらがおじいちゃんのおちドアはあか
 ずひどい光景でした、そしてその夜は家のハ
 ウスで石油ストーブがやぶとんをもちてつ
 らい夜をすごしました。朝、目がさめて水道
 の水は出ない、が桶のものがちんか大量に落下
 していたなどひかいか大まいことをしり津波
 や原発をテレビで見たときは、すごくこわか
 ったです。

そして復興への想いは、津波でひかいをう
 けた人たちが、じしんでつらい思いをした人
 たちは、どんなにつらくても負けないでかん
 げ。て生きていってくださーい。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名石井 琴実

年齢 12 歳

職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

私は、2年生の時の3月11日に東日本大震災を体験しました。私はその3月17日体調をくずし学校を休んでいました。もちろん地震がくることなど想像もしていませんでしたのであまりの出来事で頭が真っ白になりました。数十分後、家族が帰ってきました。それから何ヶ月かは、とてもつらい日々が続きました。水道、お風呂、トイレの水がです。近住の人たちと協力し合う日々が続きました。私はその時、その場ではおもはなかつたけれど、今も一度考えてみて思った事がありました。なにかつらい事があればその近くには、支えてくれる人がいるという事です。ほんの少しのことでも助け合い支え合いながらくらしたい。これはこれから先の未来が今、考えている数倍も明るく楽しい未来になるのではないかと私はこの作文を書き、感じる事ができました。

匿名希望

僕は、東日本大震災が起こった時は、小学三年生だった。僕が学校にいる時に、大震災が起こりました。僕はその時に帰りの学活が終わり帰るところで急に大きなゆれとともに地震がきました。先生の指示とともに机の下にかくれ、先生と友達と一緒に外に出ました。地震は、ゆれが激しく僕はとっってもこわくなりました。学校におじいちゃんやさんが来てくれ、家に帰ると家がへびが入っていてびっくりしました。家に入る時、かべはへびが入っていて。お風呂も湯気がついていたので冬も暖かく過ごすことができました。でも水は使えなかつたのでお風呂に入る事も出来ず、お風呂も使えずに不便でした。役所に家族で水をもらいにいったり今まで経験がない事ばかりで不安でした。この東日本大震災で家族との会話も増え、家や学校もかなりのスピードで立て直し人間はすごいなあと感じることができました。今後自分が生きていく限りずっと忘れずいたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 穂積 遼 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

二	〇	十	一	年	三	月	十	一	日	午	後	二	時	四	十	六	分		
突	然	地	震	が	起	き	た	。	そ	れ	も	。	体	験	し	た	事	の	子
い	巨	大	地	震	が	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
そ	の	地	震	は	。	私	が	小	学	二	年	生	の	時	に	福	島	と	
ほ	い	め	。	宮	城	。	岩	手	。	東	日	本	を	一	瞬	で	襲	。	た
あ	の	時	の	一	瞬	は	。	何	年	経	っ	て	も	忘	れ	ら	れ	な	い
下	か	ら	突	き	上	げ	ら	れ	る	よ	う	な	感	覚	。	思	い	出	す
だ	け	で	怖	く	な	る	。	そ	れ	と	同	時	に	浪	江	町	で	は	。
第	一	原	発	が	爆	発	し	た	。	放	射	能	が	も	れ	て	福	島	の
大	半	が	汚	染	さ	れ	て	し	ま	。	た	。	今	現	在	。	何	年	経
て	も	汚	染	さ	れ	た	ま	ま	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
そ	れ	か	ら	一	ヶ	月	後	。	前	め	たい	な	福	島	。	宮	城	。	
岩	手	に	す	る	た	め	各	地	域	で	は	。	復	興	へ	の	想	い	が
高	ま	り	ま	し	た	。	例	え	ば	。	県	外	か	ら	了	一	ティ	ス	
ト	が	来	て	チャ	リ	ティ	ー	イ	ン	サ	ー	ト	や	。	募	金	活	動	
動	。	私	も	募	金	活	動	を	し	て	い	る	の	を	見	た	事	が	あ
り	募	金	し	た	事	が	あ	り	ま	す	。	こ	ん	な	に	大	変	で	も
何	か	一	つ	で	も	役	に	立	て	れ	ば	い	い	な	と	思	い	ま	し
た	。	何	年	経	っ	て	も	あ	の	日	の	思	い	出	。	復	興	へ	の
想	い	は	決	し	て	忘	れ	ま	せ	ん	。	。	。	。	。	。	。	。	。

氏名 飛邊 光音 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

平成23年3月11日、東日本大震災が起きた
 とき、私はまだ小学校にいました。当時2年
 生の私は、いきよりの地震にびっくりして、
 あの長い揺れが、とっとも短く感じていまし
 た。その時の私の登下校はバスだったので、
 反対方向の友達も降りしてから帰ります。そ
 の道は、いつもとは全然違う風景でした。道
 路はデコボコしていて、マンホールはもり上
 がっていて、お墓の石は崩れていました。無
 事、家に着くと、私の家は何とか無傷でした。
 その後も、余震がたくさん起き、テレビで
 は、津波の映像と注意報が流れていました。
 それ以来、私は、ちよちよとしたボランティア
 活動に参加しています。そこで東北の沿岸
 部を実際に見に行くことができ津波の爪跡を
 見てきました。今、振り返っても恐ろしい体
 験だったなと思います。だからこそ、その怖
 さを、もっとたくさんの人々の笑顔と元気に換
 えられたいなと思うようになりました。
 逆れからも、精一杯頑張ります。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 奈良祐人 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

ぼくは初めてこのような大きな地震を体験し
 ました。物が落ちたりしてとてもこわかった
 けれどもっとさわいと思っただけ、テレビで
 見た津波びした。色々な家が流れてすごい
 きおいで流れていきました。でもぼくは海か
 ら遠いところで津波がこなくてよかったです。
 ぼくが住んでいるあたりは、もうふつうの生
 活に戻ったりしていいけれど得に、津
 波の被害を受けたところなどはまだ全然ふつ
 うの生活に戻れない人達がいっぱいいると
 思うので生活がふつうに戻れるとよいと思
 いました。すぐにでも復興してもらえるように
 自分から出来ることなどをやったり、
 こういうような災害で、被害が起きないこと
 を願っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 侑也 年齢 13 歳 職業・学校名 大吹中学校

「東日本大震災の恐ろしさ、
 東日本大震災は僕が2年生の時に起こりました。
 帰りの学活中に「ゴー」という地響きの
 直後、いきなり激しい揺れが襲いました。僕
 たちは、すぐには机の下に隠れました。でも揺れ
 が激しくいくらおさえても動いてしまい、棚
 からは本、書類が全て落ちました。地震がお
 さまり校庭に避難すると泣いている児童もい
 ました。やがてお父さんがおかえりに来ました。
 その時姉は泣いていました。家に帰ると衝撃
 を受けました。家の家具は全て床に散らかっ
 ていました。テレビは落ち、食器は壊れて、
 近所の屋根の瓦もほぼ落ちていました。リビ
 ングが片づきニュースを見ると津波と原発の
 事を取り上げていて恐怖を感じました。また
 水は出なく食料もなく夜も安心して寝ていら
 れませんでした。そして今でも町中には仮設
 住宅やぐずりだままの家を見かけます。また
 原発事故の影響で避難したままの人もあります。
 1日も早く復興する事を願っています。

匿名希望

僕は三月十一日の日、おばあちゃん家にい
ました。勉強をしていた時、ぐらぐらと家が
ゆれてきました。僕は、地震なの分かりま
せんでした。僕は怖くなっ たので、おばあち
ゃん家から近い、いところの家に行きました。
物はたおれて音もすごかったので、死ぬんじ
ゃないかなと思いました。大きい地震はおさ
まっても余震が続いて本当に怖い体験をしま
した。そして僕が中学一年生になっても地震
が起こることもあります。その地震が起こる
と、怖くて怖くてどうしようもない、状態に
なってしまう。今はまだ怖いけど、少し
ずつ慣れていけたらいいなと思います。
次に復興への想いです。テレビで家が沢山
こわれてしま、たのを見ました。津波も人を
襲ったのもです。僕は家もこわれず、津波も
きませんが、ど。ちも襲われなかつたことに
感謝したいです。さらに僕が死ななかつたの
も感謝したいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 立石真帆 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中

東日本大震災から、五年がたちました。三
月十一日の二時四十六分の事は、今でも忘れ
ません。当時小学校三年生だ。た私は、生き
るか死ぬかの問題を実感したような気がしま
す。震度六強の中なので、私がにげた外から
は、二階の食器が割れる音、一階のたながた
おれる音が聞こえ、目の前の道路がひび割れ
ていくのが見えます。当日から何日かた、て
川に水をくみに行ったり、食べる物といっ
たら非常食ばかりでした。
そんな日々の中、整理した家の水道から水が
出た時は、とても嬉しか、たです。そんな事
をする日常が、いつの間にか五年た、ていま
す。私たちがいつも通りに暮らしている中で
まだ家に戻れない人や、放射線量の高い場所
に住んでいる人々はいるので、少しずつでも
復興へ進んで欲しいと思います。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 熊田翔

年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中校

僕の住んでいる町は矢吹町と書いてあります。矢吹町にはあの3月11日の東日本大震災の影響で富岡町などからひなんしてきている人もたくさんいます。ある日、用があって南相馬にいったときのことです。最近開通した国道6号を通過していきましました。途中に浪江町周辺を通ったときに思いました。また震災のつめあとはのこったままでは雑草もボロボロで家のかわらはひはかたえてとても心が痛くなってしまう。自分の町とくらべものにならなからひんかたです。

よけいなことかもしれませんが外国は放射能をあびた土の置場についてめぐって見ますが、僕はこう思います。そういう「おせん物」を捨ててもまったのなら何かを捨てなければならぬ。無理なのかもしれませんが僕も福島のためにがんばっていきたいです。そして脱原発、戦争のない世界へ。

氏名 辺内 優斗

年齢 12歳

職業・学校名

矢吹中学校

この東日本大震災が起きた時	ぼくは、善郷
小学校にいました。善郷小では、	のすやつく
えうレドセルヤおいてあ、たものが、	いろい
ろうごきましました。善郷小は、	プールが外に
あるんですが、その水が、ほとんど	あふ出で、
学校の近くの道路にひびかはり、	て、ほと
にこわが、たです。	
家にかえ、ても、りきくなものが	たおれて
いたりこわれていたりしました。	それかた
すけたり、すてたりしてたりへん	でした。あ
と、電気をつかえなが、たので、	お湯などが
つかえなが、たので、大変	でした。
今は、電気をつかえるし、道路も	なおされ
てきたのでよかたですけれど、	まだなおされ
ていなりとこがあるのでそこを	なおしこほ
しりです。	

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 宮向井 瑠々華 年齢 12 歳 職業・学校名 知吹中学校

私は、当時7歳でした。地震が起きたとき
 私は、ちょうど学校の玄関から外に出たところ
 でした。地震がだんだん強くなり校内の放送
 で「校庭に避難しなさい。」という指示が出
 たので私は、友達と一緒に校庭に避難しまし
 た。地震が弱まっても恐怖感で私たちは泣
 き泣いていました。親が迎えに来て家の中を
 見るとタンスが倒れていて扉は外れていて、
 中はごちゃごちゃでした。次の日、テレビを
 見てみると、浜通り方面は、津波の被害で、
 たくさんのお家が流されたというニュースが放
 送されていました。このような体験は一生忘
 れられません。

復興については、まだまだ遅れてる場所が
 あるのでその場所に住んでいた人たちが早く
 自分の住んでいた場所に戻れるといいなと私
 は思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 水野 舞 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

東日本大震災のあったあの日、私は、小学
 二年生の終わりごろでした。『児童クラブ』
 で、私は、外遊びをしていました。その時、
 いきなり地面が揺れ始めました。遊具から離
 れ、先生がいる所へ行っ たのですが、何か起
 きたのか、よく分かりませんでした。揺れが
 おさまるまでの時間が、とても長く感じられ
 ました。あとから、これが大地震だと分か
 った時、私は怖くて泣いていました。「早くお
 家に帰りたい」と。それから、校庭にいた私
 たちは、体育館に行き、親のおかえを、先生
 方と待っていました。4歳上の兄と、や、と
 帰れたのは、夕方6、7時過ぎでした。おち
 も帰る祖母の家の中を見ると、ぐちゃぐちゃ
 でした。「いつも通りの暮らしに戻るのが
 な〜」と、ラジオの放送を聞きながら、不安
 に思いました。思い出すと、胸が痛いです。
 あの大地震を体験して、命の大切さ、物の
 ありがたみ、そして、自然の恐ろしさを改め
 て感じました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 降矢 梓沙 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

私は、震災がおきたとき小学生でした。私の
 クラスはインフルエンザで学級へいさにな
 ってしまう、たためその分、ほかのクラスより
 も多く授業をしていました。ちょうど私のク
 ラスが授業を終わりさようならと言、たその
 時でした、いきなりすごいゆれがや、てきて
 すぐ机の下にかくれました。先生は、すごい
 ゆれの中とびらをおさえていました。でも、
 おさえているのにとびらが動いていたので、
 地震のゆれの強さにビッワリしました。ゆれ
 がおさま、てからひはんして少したつとよ震
 がなんども来ました。家に帰、てみると、す
 べてのものがゴチャゴチャにな、ていてとて
 もビッワリしました。こんなに大きな地震が
 来るとううな、てしまうのかとまたビッワリ
 しました。でも、こうな、てしまうというこ
 とを思うと、絶対来ないとはかぎらないけれ
 ど、来てほしくないと私は思います。復興し
 ていない地域もあるので、早く復興できるこ
 とを願、ています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 曾野 叶羽 年齢 13歳 職業・学校名 矢吹中学校

東日本大震災の時、当時私は小学校2年生
 でした。まだ小さかった私は、地震のことな
 りてま、全く知りませんでした。しかし、ま
 た、たくいいで調せる日は、3月11日のあの日
 で止まりました。

3月11日は、普通に友達と遊んで、今日も
 普通に終わるそう思、たしゆん感、敷しいゆ
 れが私達をおそいました。私達は机の下にか
 くれて、必、しにゆれが止まるのを願うこと
 しかできませんでした。ゆれは、3分ほど続
 きました。強いゆれがおさまっても、その後
 も予震が何回も続きました。テレビをかけた
 ら、津波の動画だ、たり、行方不明者を探す
 姿だ、たりでした。見た人はきっと、笑顔が
 消えてしまったのではないのでしょうか。

あの日の地震で、多くの人の命をうばい、
 同時に多くの人の笑顔もうばってしま、たと
 私は思う。現在も、笑顔を取り、もどせない人
 々が多くいる。無理矢理笑顔にすることは、で
 きないが、自然と笑顔になる時を願います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 長尾 秀南

年齢 12 歳

職業・学校名 大吹中学校

東	日	本	大	震	災	が	お	き	た	3	月	11	日	、	私	は	小	学		
二	年	生	で	し	た	。	最	初	は	小	さ	な	ゆ	れ	で	、	い	つ	も	
の	小	さ	な	地	震	だ	と	思	い	ま	し	た	。	し	か	し	、	そ	の	
ゆ	れ	は	だ	ん	だ	ん	と	大	き	く	な	り	、	時	間	が	と	て	も	
長	く	感	じ	ま	し	た	。	学	校	か	ら	家	へ	帰	る	と	き	、	堀	
は	崩	れ	、	私	の	家	の	か	わ	ら	は	ほ	と	ん	ど	落	ち	て	い	
ま	し	た	。	こ	の	日	か	ら	数	日	が	た	、	た	あ	る	日	、	ニ	
ュ	ー	ス	を	見	る	と	、	地	震	で	津	波	の	被	害	が	あ	っ	た	こ
と	を	知	り	ま	し	た	。	そ	こ	で	は	、	私	が	昔	住	ん	で	い	
た	な	み	え	町	の	こ	と	も	た	く	さ	ん	書	か	れ	て	い	ま	し	
た	。	つ	ら	い	現	実	を	つ	き	つ	け	ら	れ	、	私	は	悲	し	く	
な	り	ま	し	た	。															
あ	の	日	か	ら	5	年	経	っ	た	今	ど	も	、	自	分	の	故	郷		
に	帰	れ	な	い	人	た	ち	が	た	く	さ	ん	い	ま	す	。	私	た	ち	
の	町	は	元	の	可	が	た	に	戻	り	つ	つ	あ	る	の	ど	す	が	、	
こ	の	よ	う	な	こ	と	が	二	度	と	起	こ	ら	な	い	こ	と	と	、	
避	難	し	て	き	た	人	た	ち	が	自	分	の	故	郷	で	笑	顔	で	暮	
ら	せ	る	日	が	く	る	こ	と	を	、	心	か	ら	願	い	ま	す	。		

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私は、一度も「東日本大震災」を経験した
 ことはありません。
 ちょうどそのころ私はまだ小学2年生でした
 私はそのとき、道徳の授業をしていてもうす
 こしておゆると思ったころに地震がおこりま
 した。私はもうすぐおさまるだろうと思いま
 した。とてもかんたんな気持ちでした。でも
 先生に校庭にいらしてください、といわれ
 たままにいました。そして校庭の真ん中で
 みんなすわってひなんしました。そして、
 泣いてる人もいれば、おびえてる人もいて、
 私はおそゆず泣いてしまいました。でもうし
 ろのお友達にはげましてもらってホットしま
 した。そしてお迎えがくると、家にかえりま
 した。そして、物がたくさ人にばらけていたの
 で、おばあちゃんとおばさんが、かたづけ
 ているとき、おじいちゃんとおかあさんが
 きました。そうすると、テレビをつけて今の
 じょうきょうをみると、とてもな背景で
 した。私は、そのころを経験していません。

(20文字 × 20行)

匿名希望

私は初めて、恐ろしい体験をしました。小学生の
 の行です。私はいつもと変わらぬ前に学校に行
 きました。もうすぐ帰ると思ったその時、
 最初は予震地帯と初め時した。その次に大き
 な地震地帯だったのです。家に帰って、
 家の中はめちゃくちゃでした。テレビや家具
 など倒れて、とても怖かったです。テレビでは
 津波警報が鳴り響いてきました。大塚にも
 津波が来るといふので、早く帰ると思っ
 ました。◇◇◇◇◇
 テレビでは津波の流れた人達が今に見
 つかない人達がいっぱいいます。早く
 見つけてほしいと思います。今後はいつどの
 へ、津波が起きるのか、分らないので、
 準備はして、いざという時に命を
 守る。こうして、亡くなった命の
 ため、生きていける人達は、その人達の分
 さん生きてほしいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 川崎 朱華 年齢 13 歳 職業・学校名 知町立矢吹中学校

あ	の	3	月	11	日	の	大	震	災	。	忘	れ	て	は	い	け	な	い	。
忘	れ	ら	れ	な	い	あ	の	時	は	。	今	で	も	し	。	か	り	覚	え
て	い	ま	す	。															
当	時	小	学	2	年	生	だ	ら	た	私	は	。	下	校	途	中	の	ス	キ
キ	ー	ル	バ	ス	の	中	で	し	た	。	突	然	バ	ス	が	止	ま	り	。
。	地	震	だ	よ	。	と	運	転	寺	さ	ん	が	言	っ	た	か	と	思	う
と	。	バ	ス	ご	と	大	き	く	揺	れ	だ	し	ま	し	た	。	地	震	が
止	ん	だ	隙	に	家	に	着	き	ま	し	た	が	。	家	族	と	会	え	て
も	。	不	安	は	な	く	な	り	ま	せ	ん	で	し	た	。	そ	の	後	も
し	ば	ら	く	不	安	な	日	々	は	続	き	ま	し	た	。				
◇																			
無	事	に	学	校	は	再	会	し	。	今	の	状	況	が	あ	り	ま	す	。
が	。	あ	の	日	が	ら	の	不	安	が	完	全	に	消	え	て	い	ま	す
せ	ん	。	原	発	や	汚	染	水	。	放	射	能	な	と	現	在	で	も	危
険	な	場	所	は	少	な	く	あ	り	ま	せ	ん	。	そ	し	て	未	だ	に
福	島	=	被	曝	と	い	う	イ	メ	-	ジ	も	あ	る	よ	う	で	す	。
こ	れ	は	同	じ	県	民	で	あ	る	「	私	達	」	で	乗	り	越	え	な
け	れ	ば	い	け	ま	せ	ん	。	そ	し	て	同	じ	国	に	い	る	時	点
で	「	関	係	な	い	」	人	な	ど	い	な	い	の	で	す	。			
一	刻	も	早	く	全	域	が	復	興	し	。	福	島	県	と	し	て	の	
復	興	が	で	き	る	こ	と	を	願	っ	て	い	ま	す	。				

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 弟地 鈴音 年齢 12 歳 職業・学校名 矢吹中学校

地震がきた午後2時46分。私は、校庭に
 いました。激しいゆれにみまわれ、周りには
 泣いている友達もいました。そのとき、家族
 は、みんな無事かとても心配でたまらなかつ
 たのを、中学1年生になった今でもしっかり
 覚えています。今では、想像もつきませんが
 あの時津波がたくさんの人たちの命を奪っ
 ていたと考えると、胸がいっぱいになります。
 私は、昔から海が大好きでした。夏休みにな
 ると家族できまって旅行に行きます。ですが、
 震災がきてから放射能がこぼれて海には、あ
 まりいきません。いつか、福島に海に安心し
 てたくさんの人が入れるようになればいいと
 心から願っています。地震と津波が奪ったも
 のは、もう二度と戻ってきません。だから、
 ひとりひとりが前を向いて、日本全体が協力
 して、被害を受けた地域を復興していかなけ
 らばなりません。今こそ、この日本がひとつ
 になるときだと、私は強く思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

大震災が起こり、たのば、今から約5年前の
事として私が小学2年生のときでした。私は、
外で縄とびをして遊んでいました。はじめは
「なんか少しゆれてるなあ、ぐらいの地震だ
ったけど、次の瞬間、「ゴゴゴゴ」地面が
鳴りました。上を見ると、ゆりの木が大きく
ゆれていました。私達はあわてて校庭に避難
しました。校庭の一部がパッキリ割れて、そ
こから水がタアタア音を出してあふれ出し
てきました。私は、あまりの現状にびくり
し、泣きだしました。学校に母と兄が来た時
私は救われたように感じました。

私は、いまでも地震が起きるとあの時を思
い出してしまふときがあります。でも、毎日
どこかで復興支援や復旧作業を行っていると
思うと、とても安心します。絶対元の姿にな
ることはできないけど、早く復興された福島
を見たいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡邊 匠

年齢 13 歳

職業・学校名 矢吹中学校

ぼくが小学二年生の時でした。その時は、
 2時46分という時間、ぼくたちは、帰りの
 準備をしていました。そして、1人の男の
 子が、「地震だ！」と言ひんな、動きを止め
 ました。ゆれが始まり、机の下に分かれ、
 外へ行くと、みんながあわてており、泣いて
 いる生徒もいました。校舎を見ていると、が
 ラスがすごくゆれ、今にもあられそうでした。
 ゆれがおさまり、校舎に入ると、入口の所に
 並んでいるトロッターなどが、すてて、たお
 れていて、すごかったです。あんな地震に始
 めてでした。その地震で、違う県では、津波
 などの被害を受けており、復興が必要です。
 今後は、みんなが協力して、復興を支え、震災
 前以上に、なったいいなと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 吉田 怜平

年齢 13歳

職業・学校名

矢吹中学校

ぼくは、東日本大震災を体全身でおそろしい
 思いをしました。大震災が起きた時ぼくは、
 小学2年生でした。その時のきおくは、今で
 も忘れていません。ぼくは、教室でテストを
 やっていました。テストを始めこした。た
 きとです。教室の照明がゆれ始めました。
 クラスのみんなが地震。地震。と言ったの
 です。先生も教室にいたのが先生の指示に従
 いました。学校がゆれる中ぼくはすばやく
 外の安全な所に避難しました。ぼくの小学校
 は、海からほど遠い場所にあつたので津波の
 心配はありませんでしたが、学校の近くにあ
 る電柱などは、大きく左右にゆれ今にも倒れ
 そうで、とてとこおか、たです。地震がおさ
 まつたら、すばやく校内に入りランダムな
 ども、取りにいきまともう一度外の安全な場
 にもどりました。そのようにして少しまつと
 親かおかえにまました。家に帰ると、食器た
 ななど、倒れていました。とてとこおかつた
 です。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 吉岡 知生 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は東日本大震災で、大変な経験をしました。

まず、地震がおきたとき、私は、とてもおどろきました。当時、ぼくは二年生で、大津波や地震など、経験したことがありませんが身近に経験するなかで、思いもしませんでした。地震がおきたとき、ぼくは、後者の衝撃を受けました。なんと、家具が本がぶがたぶと揺れ、物が動きました。そのとき、学校が休みになりました。

東日本大震災は、私たちにたくさん被害をもたらしました。しかし、東日本震災は、私達に教えるべき大切な事もあるはずです。私達は地震のよるろしかに加え原発事故のよるろしかも学びました。

この震災のおかげで、今、原発の安全性が議論されています。この事を未来に教えるければ、地震のよるろしかは、少なくなるはずだと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 森長良太

年齢 13 歳

職業・学校名 矢吹中

東	日	本	大	震	災														
東	日	本	大	震	災	が	起	き	た	時	は	、	小	学	二	年	の	帰	
る	直	前	で	し	た	。	そ	の	時	の	状	況	は	、	地	面	に	は	び
か	が	え	り	建	建	物	は	く	づ	れ	て	い	た	り	し	て	い	ま	し
た	。	家	に	帰	れ	た	の	が	、	夕	方	で	し	た	。	家	の	中	は
ぐ	ち	や	ぐ	ち	に	な	り	と	な	り	の	田	地	は	な	な	め	。	
て	い	ま	し	た	。	こ	の	時	私	は	、	こ	の	先	ど	う	な	る	の
か	心	配	に	な	る	く	ら	い	で	し	た	。							
そ	れ	か	ら	五	年	た	っ	た	今	は	、	な	な	め	。	こ	い	た	
田	地	は	、	ち	や	う	単	場	に	な	り	、	な	び	が	え	り	て	い
た	道	な	ど	も	な	あ	っ	て	い	た	り	、	し	て	い	ま	し	た	。
私	が	思	う	に	、	こ	れ	か	ら	う	す	び	き	こ	と	は	-	津	波
の	地	震	で	家	が	な	く	な	っ	て	仮	設	住	居	に	住	ん	で	い
る	方	へ	の	サ	ポ	ー	ト	だ	と	思	い	ま	す	。					
こ	れ	か	ら	は	、	ふ	っ	う	に	く	ら	し	て	い	る	今	を	大	
切	に	し	た	い	と	思	い	ま	す	。									

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 星 啓太 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

ぼくが、東日本大震災を経験したのは、小学3年生のときです。ぼくは祖母の家に遊びに行っていました。そのときは地震が起きるとは少しも思っていました。祖母の家で遊んでいると、いきなりテレビがけいいたい電話から音が鳴り出しました。祖母は、「何の音だろう。」と、不思議そうな顔で言っていました。しかし、その直後に家が大きくゆれ始めました。ぼくと祖母は家から出て庭へ避難しました。家を見上げてみると、屋根からものがたくさん落ちてきました。地震が終わっても余震が続いたので不安になりました。あのときはとても怖い思いをしたのを今でもよく覚えています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」麻葉用紙

匿名希望

ぼくは、東日本大震災がおこったとき二年
 生でした。ちょうど家にがえ、ていとお父さ
 人もお母さんも仕事が終わりで家にいました。
 いっしょにこのたつであたまりながら宿題を
 書、ていしました。そして学校がさるも、こきた
 りライターをひいていたと急に家がゆれ、い
 っぐりしました。ぼくはこのたつにもぐりお父
 さんとお母さんはダンスなどはおかたはハ
 ーにわたすていしてくれました。このたつの中
 で、しんがかなりおちるまでま、ていしましたか。
 たかたおさまりませんでした。このたつが
 てふとハかどちかどちかにな、ていしました
 いっ、た、い、た、かおきているのかあかすなとな
 り、外にでてみると、かおさもほとんとお
 こ、ていしました。周りの人も土ちいでおりに
 るえかさまりませんでした。その夜、てい
 つけてみるとつはみがおそろしくう、てい
 ました。おふるもいと水をあかしてはわりま
 した。その日の夜はとておちてかんじま
 した。このたつをたかたにまらにし、い、てい。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 三井 佐斗 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

ぼくの、東日本大震災の、体験談は、震災
がおこった時、家に帰ったら、かべがくずれ
ていたり、テレビがたなが、たおれえいせい、
水道も使えなくなっていて、町役場だ、水も
もどきにいったりして、すごくたいへんだっ
たことです。
そして、ぼくの復興への想いは、他の県に
非難している人が、家がこわれちゃった人
たちも、また、もとの家へ、もどれるように
なるり、みんな幸せになることが、ぼくの
復興への想いです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

ぼくは、三月十一日小学二年生のとき、小
 学校に行きました。そのときは、とにかく、ゆ
 れているという実感はありませんでした。
 でも、しばらくすると、地動がして、その中
 から水が出てきたりしました。そのときは、
 ちよつと怖かったです。地震がおさまり家
 に帰るとたながたおれていたりとにかくいろ
 んな物がたおれていました。その日は部屋を
 片づけました。その日から1週間ぐらい恐怖
 に怯えました。ぼくたちの地域より津波の
 被害にあった所の人たちは、自分たちよりを
 恐怖を感じたと思います。とにかく津波の被害
 にあった所は、早く元にもどってほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 安藤 遙介

年齢 12歳

職業・学校名 矢吹中学校

ぼくは、東日本大震災を体験して随分くわしく
 思いをしました。今、振り返ると「大変だった
 な」と思った。大震災が起きた時、ぼくは学校
 で宿題を友達とやっていた。宿題をド
 ンと終わり、友達が宿題を終るのを待
 っていると、いきなり床がゆれはじめた。そこが
 ゆれが、どんどん大きくなり、カタン、カタ
 ンと音でくゆれました。ぼくは、すぐ机の下
 に毛ぐり、そこへ先生が来て、ゆれがおさま
 るのを待ちました。先生と一緒に外へ出て
 みると、たこう景にで、くりこまされた。地
 面には、多くの石が入り周りにある家から
 くっが崩れていました。ぼくは、で、くりし
 て、家にすぐ帰ると家の中は、めちゃくちゃ
 でした。ゴッ、ゴッ、ゴッ、ゴッ、と、この木がた
 おかいていて、全部おぼれていました。そして
 おぼれた。五年かたちました。今も、そのこと
 を思い出すと、ぞ、ぞ、とします。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 藤井 菜々 年齢 12歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は、3年生の時に東日本大震災を体験しました。4年生まで休みがあり、学校になれるまで時間が少しかかりました。今でも少し怖いです。最近地震がなる時、地面が「グー」と言う音がなります。私はおフロに入、7いる時など、すごく怖くて、あまりあたたまらずすぐに上が、てしまいます。いわきの方や海

の近は津波で家や多くの命がなくなりました。今だに行方不明の人もいるので早く見つか、てほしいです。そして、家もきれいにし、今

までどおりに戻、てほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

今から約4年まえに起きた、東日本大震災を
 ふりかえるとても恐ろしい記憶がよみがえっ
 てきます。震災では、私は学校の帰り、家に
 1人で帰っていたらいきなり地面がゆれたし
 てさらにひびもどんどんはいつとても怖か
 かったです。おまわりの私は何が何でも全然
 理解できませんでした。それにこういう体験
 は初めてだったの、でどうしていいのかも分か
 りませんでした。そして家に帰ると残念な事
 に、自分の家はこわれていました。家にはた
 母と妻、子の弟が無事だっただけで嬉しかった
 からです。そしてしばらくの間お父さんの会社
 に自分の小さな家があったのでそこに行って
 2ヶ月間過ごしていました。でもとてもさま
 ざらで苦しい2ヶ月間でした。でも2ヶ月がた
 つと家が見つけられ、うちの家にひっこしました
 ため。部屋は4つしかなかったけれど十分な広さ
 でした。そしてだんだん普通の生活に戻れた
 んです。2ヶ月間の間は笑顔のあふれる
 あの生活に戻りたい事を願っていました。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 村越 宗治郎 年齢 13 歳 職業・学校名 東吹甲学校

東	日	本	大	震	災	が	起	こ	。	た	日	。	自	分	は	友	達	の	
家	で	遊	ん	ど	い	ま	し	た	。	地	震	が	お	こ	ま	。	た	と	思
。	た	ら	。	予	震	が	お	。	と	続	い	て	。	怖	か	。	た	で	ま
家	に	帰	。	。	飼	。	。	い	た	。	金	魚	が	水	を	さ	か	り	出
て	。	死	ん	ど	し	ま	。	。	。	と	。	。	。	。	。	。	。	。	。
地	震	は	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
少	し	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
し	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
の	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
持	ち	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

匿名希望

ぼくは東日本大震災の体験談話を書きまわすぼく
 いつものように友達の家へ遊びに行きました。
 そして友達と家の中で遊んでいると家のかげが
 「カタカタ」とゆれはじめました。ぼくはい
 そいでそとに走りました。でも立ちいらぬあ
 らいのゆれが、ちめかとてもあつ、なびた
 ちと晴ちいた空が雲におおわれ家といっ
 雪が降り初めちを思ふうそいませ。そし
 てぼくは父と人から家はいちりお前は死
 ちといお来ました。
 ぼくは町の町は1年ぐらいでぼくもとどろり
 ちといまか、津波のまたおは、復興は
 復興がたりえす。復興をはやくかっ
 ほしいと思います。それはかせかと言
 うしなっかせつゆさるくはすん
 かがあしえうかと思つた。それはし
 とした家がたか

匿名希望

自分が乗日本大震災が起きたときは自分
 は家に入りました。家にいきなり花火の音が
 とうとうと来た。そして花火で、その音が
 とうとうとすくなく、もう家の花火と
 かの上人あかされていすものは、ほとんどたか
 らたりにふきりして、そのとき
 はほかの家は水がでなく、花火の音が
 とうとうとすくなく、もう家の花火と
 くにすくなく、もう家の花火と
 の思いは、またみらいにせしむる人かな
 のせい、あつた、いす

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 八百板 佐紀 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

平成	23	年	11	月	3	日	2	時	46	分	、	2	年	生	の	教	室			
で	「	さ	よ	う	な	ら	」	の	あ	い	さ	つ	が	言	い	終	わ	っ	た	
途	端	、	あ	の	大	地	震	が	起	き	ま	し	た	。	先	生	が	大	声	
で	「	机	の	下	に	隠	れ	て	」	と	言	い	ま	し	た	。	私	は	、	
す	ぐ	机	の	下	に	隠	れ	ま	し	た	。	そ	の	時	は	、	不	安	な	
気	持	ち	で	、	い	っ	ぱ	い	で	し	た	。	そ	の	後	も	家	に	帰	
っ	て	テ	レ	ビ	を	見	る	と	、	大	き	な	波	が	家	を	飲	み	込	
ん	で	い	き	ま	し	た	。	あ	ん	な	光	景	を	見	た	の	は	初	め	
て	で	し	た	。	そ	の	時	は	不	安	だ	け	で	な	く	怖	さ	も	込	
み	上	げ	て	き	ま	し	た	。	東	日	本	大	震	災	で	た	く	さ	ん	
大	変	な	思	い	を	し	ま	し	た	。	で	も	、	私	た	ち	よ	り	大	
変	な	思	い	を	し	た	人	は	た	く	さ	ん	い	ま	す	。	家	を	流	
さ	れ	た	人	、	家	族	を	せ	し	た	人	、	そ	ん	な	人	た	ち	が	
い	ま	す	。	震	災	前	の	よ	う	に	楽	し	く	暮	ら	す	こ	と	は	
出	来	な	い	と	思	い	ま	す	か	。	1	日	で	も	早	く	、	た	く	さ
ん	の	人	が	笑	顔	あ	ふ	れ	る	暮	ら	し	を	し	て	ほ	し	い	と	
思	い	ま	し	た	。															

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 水田 真人 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

僕が体験したあの日の出来事や、復興への
想いは、大きく分けて2つあります。

1つ目は、あの日に起きた時の体験談です。
僕がまだ小学2年生だった頃、学校で帰りの
会をやっていた時でした。僕は机にもぐり込
みましたが、机が激しく揺れて、とてもひ
くりしました。その後校庭に避難しましたが、
校庭にはプールの水があふれ出ていました。
僕は予想外のことに、頭が混乱してしまいま
した。また、自宅をのぞいてみると、僕の机
の本棚や物が、嵐が吹き荒れたかのように散
乱していました。僕は、鳥肌が立つような、
怖い思いをしました。

2つ目は、復興への想いです。もう二度と
あのようなことが起きないようにと願って、
またいつかはやって来ます。それを止めるこ
はできませんが、福島県民で立ち上がり、大
震災にも負けない笑顔あふれる福島県を築い
ていきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 阿部 花奈絵 年齢 12歳 職業・学校名 矢吹中

今	か	ら	5	年	前	の	3	月	11	日	、	そ	の	時	私	は	小	学	
2	年	生	で	、	帰	り	の	準	備	を	し	て	い	ま	し	た	。	友	達
と	楽	し	く	会	話	を	し	な	が	ら	準	備	を	し	て	い	る	時	、
突	然	グ	ラ	グ	ラ	ッ	と	激	し	い	ゆ	れ	に	お	そ	わ	れ	ま	し
た	。	す	ぐ	に	机	の	下	に	か	く	れ	て	、	「	も	う	、	自	分
は	死	ぬ	ん	じ	ゃ	な	い	か	」	と	不	安	で	し	た	。			
家	に	帰	っ	て	家	族	が	全	員	無	事	で	安	心	し	て	い	ま	
し	た	。	も	、	余	震	が	何	度	も	続	き	、	安	心	は	す	ぐ	
に	か	き	消	さ	れ	ま	し	た	。										
地	震	で	水	が	止	ま	り	、	水	は	自	衛	隊	の	方	々	か	ら	
も	ら	い	、	風	呂	は	い	や	さ	か	を	貸	り	ま	し	た	。	今	、
当	た	り	前	の	様	に	生	活	し	て	い	る	事	が	、	と	て	も	う
れ	し	く	て	仕	方	が	あ	り	ま	せ	ん	。							
5	年	た	っ	た	今	も	、	仮	設	住	宅	で	過	ご	し	て	い	る	
人	々	や	復	興	が	余	り	進	ん	で	い	な	い	所	が	た	く	さ	ん
あ	り	ま	す	。	自	分	が	今	、	こ	う	や	っ	て	普	通	に	生	活
で	き	て	い	る	事	に	感	謝	し	て	復	興	に	関	す	る	ボ	ラ	ン
テ	ィ	了	に	多	く	取	り	組	み	、	早	く	元	の	東	北	地	方	に
戻	れ	る	様	、	手	を	尽	く	し	て	い	き	た	い	で	す	。		

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

2011年3月13日、僕が小学2年のこ
 ろあることが、起こったそれは東日本大震災
 だ。僕はその時学校のろくに下にりた。僕は、
 震災をりるのを初めて体験したので、ビック
 リして教室に戻った。その後、校庭にひなん
 した。家に帰る時、僕は、とてもビックリし
 た。道路に土せが入り、たりにみが出来たり
 してりた。テレビを見たらずべての番組が、
 ニュースになつてりた。ニュースには浜通り
 など、大きな、被害を受けた場所がらつて
 りた。死んでしまつた人も大勢りた。未だに
 遺体が見つかつてりない人達も大勢りる。
 ども、道路などは、直つてりる。だから遺体
 などを見つかりて、平和な、世界に早く戻した

110

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 高橋 萌花 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私が体験した3月11日の東日本大震災は、
 小学2年生の時に起こりました。地震という
 ものをあまり体験したことがなか。なので、
 とても怖く、恐しい思いをしにことを覚えて
 います。地震が起こっている時、机が左右に
 大きく動いているのを見ました。避難した後
 は、プールの水が今までどれだけゆれていた
 かを物語るかのようにゆれていたのを覚えて
 います。その後の生活で、私は不自由する事
 無く過ごすことができました。

しかし、福島原発では事故があり避難区域
 の人は苦勞しにと思います。帰宅できる人も
 増えてはいますが、まだまだ仮設住宅に住ん
 でいる人もいます。住んでいる人は故郷に帰
 りたいんじゃないかなと私は思います。日本
 の政治が進む中で、復興は進んでいるのかと
 も思います。その提案は本当に必要なのか、
 復興に役立てられたいのかを考えたら、少し
 づいづいでもプラスになると考えます。そして、
 もっと幸せな日本が来ることを願っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡辺 様子 年齢 12 歳 職業・学校名 天吹中学校

東日本大震災。私が今まで生きてきた中で
 一番怖かったです。私はその時まだ小学二年
 生でした。いつも通り授業が終わって、友達と
 楽しく帰ろうと思っていた時です。いきなり
 地面が大きくゆれはじめました。すると校長
 先生に「しゃがめ」と言われました。私はそ
 の場にしゃがみました。おさまるばかりか、
 ゆれはだんだん大きくなって、木の枝が落ち
 てきました。とても怖かったです。全校生で
 校庭に避難しました。しばらくするとおばあ
 ちゃんがおかえにきました。家に帰るのがバ
 配でした。けれど私の家はこわれていません
 でした。でもテレビを付けてみると同じ福島
 県とは思えないほど多くの被害を受けていま
 した。何人もの人が亡くなり、家がこわれてい
 てとてもショックでした。東日本大震災があ
 った日から四年九か月たった今でも行方不明
 者は何人もいます。だからこそおたがい助け
 合い、東日本大震災があった日を忘れては
 けられないのです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 國井翔太

年齢 13歳

職業・学校名 矢吹中学校

僕	は	、	当	時	小	学	二	年	生	で	し	た	。	そ	の	日	は	、			
教	室	で	帰	り	の	準	備	を	し	て	い	ま	し	た	。	す	る	と	突		
然	、	教	室	が	揺	れ	だ	し	ま	し	た	。	最	初	は	揺	れ	が	小		
さ	く	、	い	っ	も	の	地	震	だ	と	思	っ	て	い	ま	し	た	が	、		
だ	ん	だ	ん	揺	れ	が	大	き	く	な	り	、	し	ま	い	に	は	机			
が	動	く	ほ	ど	強	い	揺	れ	に	お	ろ	お	れ	ま	し	た	。	と	て		
も	怖	か	、	た	で	す	。	揺	れ	が	弱	ま	。	て	か	ら	、	校	庭		
に	退	学	集	団	し	ま	し	た	。	余	震	が	多	く	、	恐	怖	で	パ	ニ	ッ
ワ	で	し	た	。	校	庭	で	は	、	親	が	迎	え	に	来	て	く	れ	た		
人	か	ら	帰	っ	て	い	き	ま	し	た	が	、	自	分	の	親	が	迎	え		
に	来	て	く	れ	る	ま	で	の	時	間	が	長	く	感	じ	ま	し	た	。		
震	災	当	時	は	、	浴	水	で	お	風	呂	に	入	れ	な	か	、	た			
り	、	買	っ	物	や	ガ	ソ	リ	ン	を	入	れ	る	の	に	並	ん	だ	り		
空	気	中	の	た	く	さ	ん	の	放	射	能	を	避	け	る	た	め	に	又		
ス	ワ	を	し	な	が	ら	生	活	し	た	り	と	、	不	便	な	こ	と	は		
か	り	で	と	て	も	大	変	な	日	々	で	し	た	。	今	ま	で	は	震		
災	前	と	ほ	ぼ	変	わ	ら	な	い	く	ら	い	幸	せ	な	生	活	が	送		
れ	て	い	ま	す	。																
こ	の	当	た	り	前	の	生	活	に	と	て	も	感	射	し	て	い	ま	す		

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小林 鈴音 年齢 13歳 職業・学校名 夫木町立矢野中学校

東	日	本	大	震	災	が	起	ま	た	時	、	私	は	小	学	校	2	年	
生	で	し	た	。	今	ま	で	経	験	し	た	事	の	ほ	い	大	ま	た	揺
れ	で	し	た	。	何	度	も	、	大	ま	た	余	震	が	ま	て	は	外	に
逃	げ	る	、	夜	は	ふ	と	ん	で	は	は	く	、	荷	物	を	近	く	に
置	き	あ	ぐ	に	逃	げ	ら	れ	る	様	に	し	く	眠	る	。	テ	レ	ビ
を	付	け	る	と	、	海	ぞ	い	で	は	大	ま	た	津	波	、	今	ま	で
見	た	事	も	な	い	様	な	海	の	様	子	で	し	た	。	お	店	に	行
く	も	何	時	間	も	並	ひ	、	水	道	か	出	な	り	の	で	水	を	
も	ら	い	に	列	に	並	ぶ	、	普	段	の	生	活	と	は	全	然	違	う
考	え	た	事	も	な	い	生	活	で	し	た	。							
◇																			
◇																			
◇																			
で	も	、	私	は	自	宅	に	い	る	事	が	で	き	た	の	で	、	津	波
や	家	が	倒	壊	し	た	り	で	、	避	難	生	活	を	し	た	人	達	に
く	ら	べ	れ	ば	、	少	し	の	不	自	由	で	し	た	。	周	り	は	復
興	と	声	を	そ	ろ	え	て	言	い	ま	す	が	、	生	活	環	境	が	整
う	の	は	当	然	で	、	元	に	い	た	場	所	に	帰	れ	る	、	元	の
生	活	と	い	い	か	は	り	ま	す	が	も	、	震	災	前	の	状	態	に
少	し	で	も	近	が	き	、	お	ん	な	が	笑	顔	で	人	の	輪	と	つ
な	が	、	理	解	で	ま	れ	ば	、	復	興	に	近	が	き	、	誰	ん	で
行	く	の	不	は	な	り	か	と	思	い	ま	す	。						

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 藤 静 良 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私 が 二 年 生 の 時 に 東 日 本 大 震 災 を 体 験 し ま し
 た。 地 震 の 時、 私 は、 小 学 校 の う め 校 庭 に い
 て、 友 達 と 一 緒 に 帰 ろ う と し た 時 で し た。 と
 つ 然 地 震 が 起 き て、 窓 が ラ ス が 割 れ た り、 地
 割 が 起 き た り、 私 の 後 ろ の 木 が た お れ た り と
 様 々 な こ と が 起 き ま し た。 家 の 人 が 迎 応 に 来
 て く れ ま し た。 車 を 見 る と、 壊 れ て い た り、
 家 に 帰 る と、 も う 住 め な い ほ ど で し た。 し ば
 ら く は、 お ば あ ち ゃ ん 家 に 泊 ま っ て い ま し た。
 私 は、 東 日 本 大 震 災 の こ と を 思 い 出 す と あ の
 時 の こ と を 思 い 出 す の で、 怖 い で す。 で も、
 さ れ か ら は、 少 し で も い い か ら 大 震 災 の こ と
 を 思 い 出 し て い き た い で す。 そ し て、 少 し の
 余 震 が 起 き て も、 気 を 抜 か ず に 地 震 が お さ ま
 る ま で、 安 心 し な い よ う に し ま す。 地 震 は、
 い つ 来 る か 誰 も 予 想 で き な い の で、 い つ 来 ても
 大 丈 夫 な よ う に 大 事 な も の を し ま っ て い き
 た い で す。 そ し て、 さ れ か ら 先 も、 東 日 本 大
 震 災 を 忘 れ な い で、 歩 ん で い き た い と 思 い ま
 す。